

第32期 (2012年6月期)

第3四半期連結業績説明資料

2012年 5月

株式会社

ドン・キホーテ

Don Quijote Co.,Ltd.

専務取締役 CFO 兼 CCO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki.com>

e-mail : takahashi@donki.co.jp

純利益57%増の159億円

11年7月～12年3月期

ドン・キホーテが7日に発表した2011年7月～12年3月期の連結決算は、純利益が159億円と前期比57%増の大幅増益になり、すでに前通期実績の127億円を上回る好決算となった。

売上高は6%増の4,083億円だった。東日本大震災以降の外部環境と消費マインドの変化を的確にとらえた商品ポートフォリオの改廃と柔軟な価格施策を実施したことにより、天候不順などのマイナス要因をカバーした。

主力のドン・キホーテ既存店は、前年の反動による客数の伸び悩みを客単価が補って1%増となり、MEGA店中心の長崎屋は10%増と、ますます競争優位性を発揮している。

売上総利益率が0.4pt改善したことを主要因として、営業利益は15%増益の233億円となった。

12年6月期における業績予想は、売上高5,310億円（4%増）、営業利益285億円（12%増）と22通期連続増収増益を計画し、純利益については164億円（29%増）と過去最高益の更新を見込んでいる。



2012年6月期 3Q 決算概況

- ✓決算業績概況
- ✓事業別業績概況
- ✓主な資産、負債、純資産の状況
- ✓四半期業績推移
- ✓セグメント情報
- ✓キャッシュフロー&設備投資の状況

ドン・キホーテグループトピックス

- ✓月次販売高の状況
- ✓出店状況&ハイライト情報
- ✓情熱価格の状況
- ✓フィデックの状況

2012期6月期 通期業績予想

本資料における記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。

1. 3Q累計連結業績概況

お客さまニーズに真摯に向き合った施策で堅実な成長を達成！

- ▶ 東日本大震災後に大きく変化した外部環境や消費マインドのなかで、出店地域に根ざした店舗運営や事業活動が着実に進化。当3Q累計期間も堅実な成長を達成。
- ▶ 「日用雑貨品」や「食品」などの生活必需品関連商品が、お客さまのリピーター化を促進し、安定的に推移。一方で、消費マインドの変化をとらえた、「時計・宝飾・ブランド品」や「女性顧客向け商品」などの展開は、前年の反動が大きく現われた「家電製品」の低迷をカバーし、さらに苦戦続きの「アパレル用品」がようやく復調。
- ▶ 地方展開は「標準化」とはならず、商圈規模や地域特性に応じた店舗スタイルや商品ポートフォリオの組み替えを柔軟に実施したことから、認知度も上昇し、収益貢献度が高まる。また、プライベートブランド商品の販売促進は、品揃えの多様性と利益率改善に貢献。
- ▶ 3Q中、1～2月は低気温下における商品処分季となり、3月は前年の反動が大きく現われる販売状況となったが、嗜好性の高い商品やライフスタイル型商品が好評を博し、概ね予想通りの推移。
- ▶ これらのことから、3Q累計連結業績は、売上高4,083億円（前期比6.7%増）、営業利益233億円（同15.0%増）、経常利益228億円（同13.9%増）及び当期純利益159億円（同57.9%増）と増収増益を達成し、通期予想に対しても順調な進捗状況。

2. 業績見通し

引き続き、「増収増益決算」を見込む！

- ▶ 連結業績の進捗状況を踏まえた通期業績の見通しは、2012年2月6日に公表した予想に変更はありません。内訳は、売上高5,310億円（前期比4.6%増）、営業利益285億円（同12.5%増）、経常利益275億円（同9.4%増）及び当期純利益164億円（同29.6%増）であります。

3Q累計業績サマリー



【期間：2011年7月1日～2012年3月31日】

(単位：百万円)

連結実績	当3Q実績				前3Q実績		通期公表予想 ※1	
	金額	百分比	前期比	進捗率※3	金額	百分比	金額	百分比
売上高	408,292	100.0%	106.7%	76.9%	382,486	100.0%	531,000	100.0%
売上総利益	105,294	25.8%	108.2%	76.7%	97,296	25.4%	137,300	25.9%
販管費	82,027	20.1%	106.4%	75.4%	77,072	20.1%	108,800	20.5%
営業利益	23,267	5.7%	115.0%	81.6%	20,224	5.3%	28,500	5.4%
経常利益	22,827	5.6%	113.9%	83.0%	20,045	5.2%	27,500	5.2%
当期純利益	15,906	3.9%	157.9%	96.9%	10,072	2.6%	16,410	3.1%
1株利益	206.41円			153.6%	134.40円		212.97円	

個別実績	当3Q実績				前3Q実績		(参考予想) ※2	
	金額	百分比	前期比	進捗率※3	金額	百分比	金額	百分比
売上高	278,554	100.0%	106.8%	76.9%	260,872	100.0%	362,000	100.0%
売上総利益	70,382	25.2%	107.9%	77.0%	65,239	25.0%	91,400	25.2%
販管費	53,340	19.1%	108.2%	76.2%	49,296	18.9%	70,000	19.3%
営業利益	17,042	6.1%	106.9%	79.6%	15,943	6.1%	21,400	5.7%
経常利益	16,503	5.9%	105.0%	81.3%	15,721	6.0%	20,300	5.6%

※1. 連結業績予想は、2012年2月6日に当初予想（売上高5,289億円、営業利益270億円、経常利益268億円、純利益140億円）を上方修正したものであります。

※2. 当社は個別業績予想を公式開示しておりませんが、連結業績予想の前提となる予想を参考予想として記載しております。

※3. 進捗率は通期予想に対する進行割合を表しております。

3Q累計連結業績概況コメント

▶ 連結売上高：4,083億円（前期比6.7%増）

東日本大震災の影響が残る外部環境の下で、「日用雑貨品」や「食品」などを中心とした生活必需品関連が底堅く推移。一方で、消費マインドの変化に適應しながら、嗜好性の高い商品の販売促進で人気を獲得。さらに、季節商品やライフスタイル型商品及びプライベートブランド商品などの販売増も貢献。なお、DQ既存店は女性客を中心に客層拡大が続き、1.0%増と引き続き伸長、長崎屋は10.3%増で進捗。

▶ 当3Q末店舗数：236店（前期末228店）

新規出店12店（DQ8店、MEGA2店、エッセンス1店、ピカソ1店）、閉鎖4店（DQ1店、MEGA1店、ドイト2店、）。長崎屋のMEGA転換は1店。

▶ 連結売上総利益：1,053億円、同率：25.8%（前期比0.4pt改善）

商品編集力を活かした提案型商品やプライベートブランド商品など、比較的利益率の高い商品が実績を伴いながら進捗。反面、一部の価格訴求型商品については、競争激化状態が続くものの売上総利益率は0.4pt改善。

▶ 連結販管費：820億円（同6.4%増）、販管費率：20.1%（同0.1pt改善）

新規出店数の増加及び好調に推移する販売状況に應じて、パートタイマーを中心とした人件費及び出店関連費用、並びに節電目的のためのLED費用などが負担増となるが、売上総利益伸長率を下回る増加率に抑制。

▶ 営業外収支戻：4.4億円のマイナス

受取利息配当金4.3億円、負ののれん償却6.4億円/支払利息12.9億円、貸倒引当金繰入額5.6億円など。

▶ 特別損益戻：12.5億円のプラス

更生債権弁済益17.8億円、収用補償金3.2億円/店舗閉鎖損失5.4億円など。

▶ これらのことから、営業利益233億円（同15.0%増）、経常利益228億円（同13.9%増） 当期純利益159億円（57.9%増）と大幅増益を達成し、いずれも3Q累計最高益を更新。

3Q累計連結業績概況

【期間：2011年7月1日～2012年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q (累計)		前3Q (累計)		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	408,292	100.0%	382,486	100.0%	106.7%
売上総利益	105,294	25.8%	97,296	25.4%	108.2%
販管費	82,027	20.1%	77,072	20.1%	106.4%
給与手当	27,779	6.8%	26,027	6.8%	106.7%
地代家賃	13,604	3.3%	13,490	3.5%	100.8%
支払手数料	9,264	2.3%	9,041	2.4%	102.5%
減価償却費	6,909	1.7%	6,794	1.8%	101.7%
その他	24,471	6.0%	21,720	5.6%	112.7%
営業利益	23,267	5.7%	20,224	5.3%	115.0%
経常利益	22,827	5.6%	20,045	5.2%	113.9%
当期純利益	15,906	3.9%	10,072	2.6%	157.9%
1株当たり純利益	206.41円		134.40円		153.6%

3Q累計事業別業績概況コメント

▶リテール事業3,928億円（前期比6.8%増）

*「家電製品」436億円（同1.9%増）

前年の販売動向に係る反動が顕著に現れている中で、中小型家電を中心に季節家電やスマートフォン関連商品などが貢献し、売上総利益水準も改善。

*「日用雑貨品」890億円（同9.1%増）

台所用品などを中心とした家庭雑貨品や化粧品などを中心としたトイレタリー用品がお客様支持を集めており、タイムリーな価格訴求品も人気化。

*「食品」1,155億円（同7.8%増）

地域のニーズに、きめ細やかな対応を進めてきたことから、安定感を保って進捗。中でも日配品、お菓子類及び酒類などが好調に推移。

*「時計・ファッション用品」898億円（同9.1%増）

嗜好性の高い商品（時計・アクセサリ・輸入ブランド商品など）の品揃えや価格設定が、お客様ニーズに好評。一方、実用衣料が牽引していたファッション用品は天候も味方に。

*「スポーツ・レジャー用品」230億円（同2.9%増）

健康及びダイエット志向の商品が好調に推移するものの、自粛ムードや天候不順で伸び悩む。

*「DIY用品」137億円（同9.1%増）

園芸用品や植物類は天候不順や外部要因に悩まされたが、工具類などのプロユース商品が徐々に持ち直し、リフォーム関連、防災関連商品も人気を集める。

*「海外（ハワイ）」94億円（同18.7%減）←営業店は3店（前期は4店）

鮮度の高さを追求し、品揃え強化策を施した「食品」が、安定した客数を獲得。

USドルでみた実質ベースは4.2%増。（ご参考：当3Q1USD=78.6円、前3Q= 86.4円）

▶テナント賃貸事業117億円（同1.0%増）

既存テナント賃貸事業の収益改善に努めるものの、一部のテナント事業者の縮小や撤退などにより微増収。

3Q累計事業別業績概況

【期間：2011年7月1日～2012年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q (累計)		前3Q (累計)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	392,791	96.2%	367,920	96.2%	106.8%
家電製品	43,640	10.7%	42,814	11.2%	101.9%
日用雑貨品	88,983	21.8%	81,592	21.3%	109.1%
食品	115,480	28.3%	107,159	28.0%	107.8%
時計・ファッション用品	89,770	22.0%	82,322	21.5%	109.1%
スポーツ・レジャー用品	23,033	5.6%	22,386	5.9%	102.9%
DIY用品	13,722	3.4%	12,587	3.3%	109.0%
海外	9,426	2.3%	11,593	3.0%	81.3%
その他商品	8,735	2.1%	7,467	2.0%	117.0%
テナント賃貸事業	11,731	2.9%	11,614	3.0%	101.0%
その他事業	3,770	0.9%	2,952	0.8%	127.7%
合計	408,292	100.0%	382,486	100.0%	106.7%

※「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

主な資産の状況

(単位：百万円)

	12年3月	11年6月	増減額
流動資産	164,661	134,515	30,146
現預金	59,168	35,031	24,137
商品	83,605	81,582	2,023
固定資産	220,349	206,785	13,564
建物等	58,786	58,056	730
土地	95,469	87,187	8,282
敷金保証金	31,959	33,303	▲1,344
資産合計	385,010	341,300	43,710

主な資産の状況

▶総資産：3,850億円

(前期末比437億円増)

主な増加要因は、現預金241億円増、新規出店及びMEGA店への業態転換に伴う棚卸資産20億円増、出店に伴う有形固定資産104億円増及び無形固定資産38億円増など。

▶現預金：592億円 (同241億円増)

銀行借入れ及び社債発行により長期性資金は調達済み、取引先金融機関数の増加に対応。

▶商品：836億円 (同20億円増)

新規出店12店及びMEGA店が増加したが、商品構成の改廃を定期的を実施。

▶固定資産：2,203億円

(同136億円増)

新規出店12店、業態転換1店以外に、次期以降の出店候補物件の獲得などにより、有形固定資産104億円、無形固定資産38億円が増加。

主な負債・純資産の状況

(単位：百万円)

	12年3月	11年6月	増減額
流動負債	145,921	106,071	39,850
買掛金	43,569	42,430	1,139
短期負債 ^{※1}	80,007	39,631	40,376
固定負債	97,878	109,987	▲12,109
社債等 ^{※2}	48,060	58,379	▲10,319
長期借入金	37,664	35,570	2,094
負債合計	243,799	216,058	27,741
純資産合計	141,211	125,242	15,969
負債・純資産合計	385,010	341,300	43,710

主な負債・純資産の状況

▶負債合計：2,438億円

(同277億円増)

主な増減要因は、銀行借入金及び社債など有利子負債322億円増（CP含む短期性負債404億円増、長期性負債82億円減）の一方で、災害損失引当金9億円減、デリバティブ債務30億円減など。

▶有利子負債：1,657億円

(同322億円増、依存率43.0%)

(うちフィデック144億円)

▶D/Eレシオ：117.4%

(同10.7pt.増、フィデック除き107.1%)

▶純負債：1,066億円 (同80億円増)

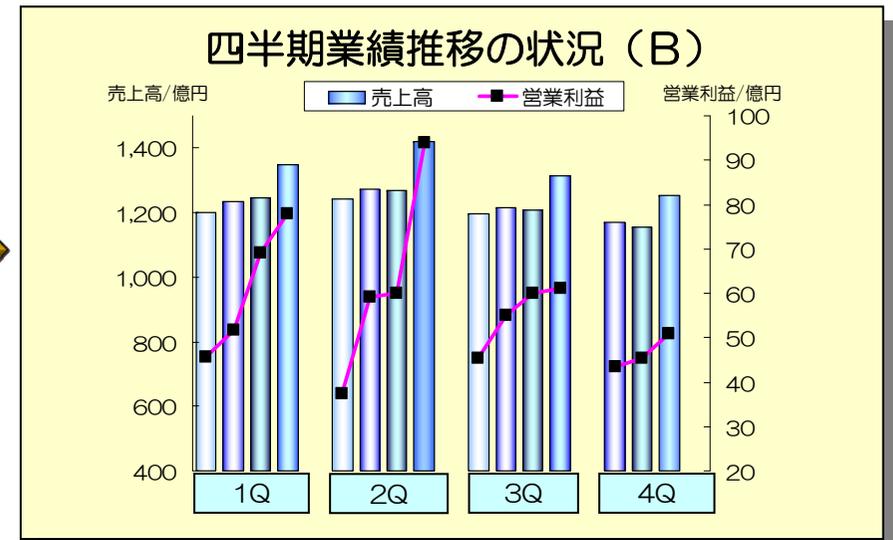
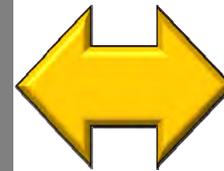
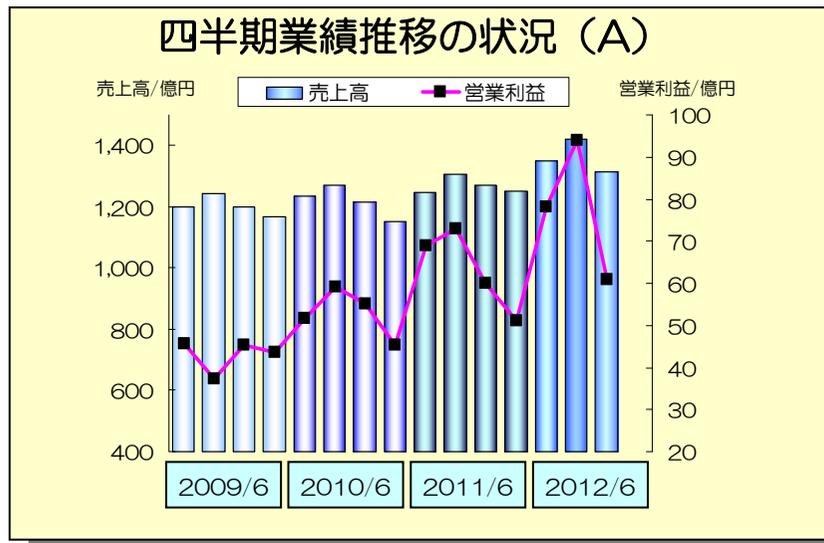
▶純資産：1,412億円

(利益の積み増しにより同160億円増、自己資本比率36.1%)

※1 短期負債＝短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債、コマーシャル・ペーパー

※2 社債等＝社債、転換社債

四半期業績推移



3Q累計セグメント情報（事業別）

セグメント利益は、「リテール事業」173億円、「テナント賃貸事業」48億円、
「その他の事業」14億円と、いずれも大幅増益を達成！！

当3Q累計 セグメント概要【2011年7月1日～2012年3月31日】

（単位：百万円）

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	392,791	11,731	3,770	408,292	—	408,292
内部取引等	6	2,566	1,601	4,173	▲4,173	—
計	392,797	14,297	5,371	412,465	▲4,173	408,292
セグメント利益	17,257	4,802	1,371	23,430	▲163	23,267

前3Q累計 セグメント概要【2010年7月1日～2011年3月31日】

（単位：百万円）

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	367,920	11,614	2,952	382,486	—	382,486
内部取引等	3	1,798	708	2,509	▲2,509	—
計	367,923	13,412	3,660	384,995	▲2,509	382,486
セグメント利益	15,483	3,719	756	19,958	266	20,224

「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

キャッシュフロー&設備投資の状況

(単位：百万円)

	当3Q	前3Q	増減額
1.キャッシュフローの状況			
期首残高	26,875	38,911	▲12,036
営業活動CF	21,237	17,393	3,844
投資活動CF	▲31,408	▲45,485	14,077
財務活動CF	27,702	30,358	▲2,656
期中増減等	20,926	1,793	19,133
期末残高	47,801	40,704	7,097

2.設備投資の状況

設備投資額	17,489	35,236	▲17,747
キャッシュフロー [※]	21,694	19,242	2,452
差引	4,205	▲15,994	20,199

キャッシュフロー

<営業CF>

税金等調整前純利益241億円、減価償却費76億円などが増加要因となる一方で、たな卸資産の増加45億円、税金支払額79億円などが減少要因となったことから、212億円の収入

<投資CF>

定期預金の預入増加57億円に加えて、有形固定資産の取得121億円、出店差入金33億円、連結範囲の変更を伴う子会社株式取得64億円、デリバティブ決済支出33億円などにより、314億円の支出

<財務CF>

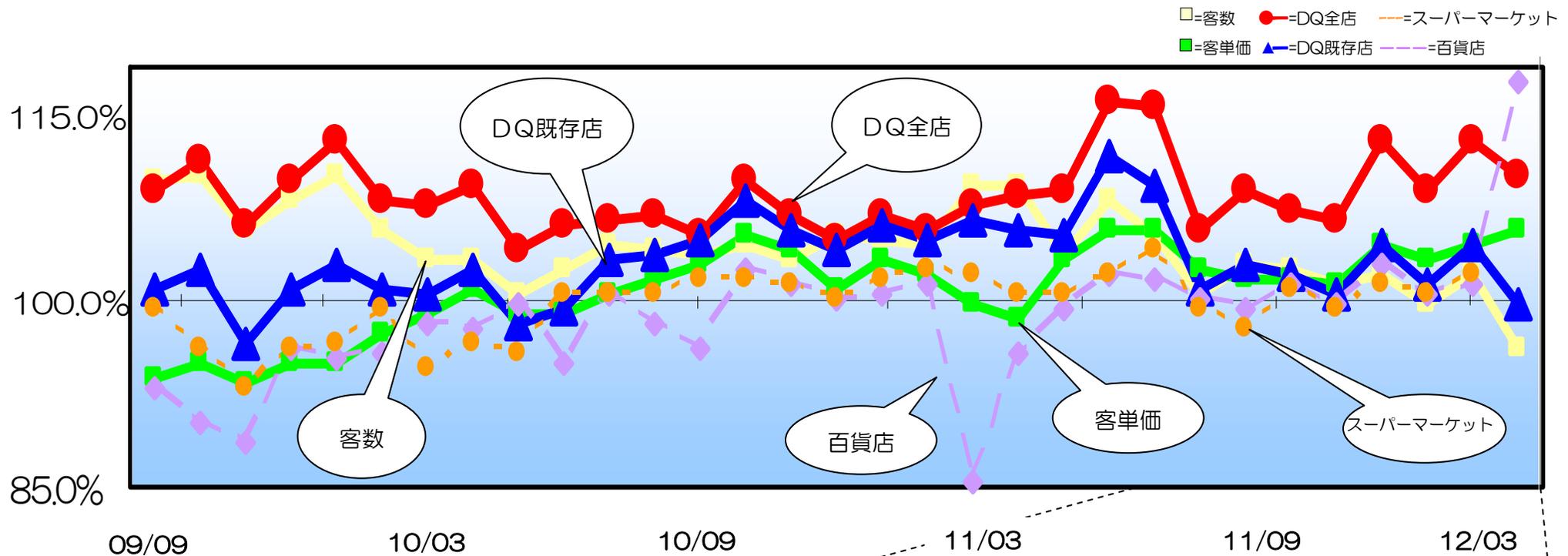
当期における設備投資、借入金返済及び社債償還資金などの必要資金は、デット調達により充當、併せて金融機関との連携強化のため年度末対応をしたことなどにより、277億円の収入

設備投資

当期に係る新規出店や業態転換、さらに次期以降の出店予定物件を獲得したことなどで、設備投資は175億円（DQ134億円、長崎屋15億円など：敷金保証金回収などを考慮した純増加額は165億円）となるが、キャッシュフローの範囲内。

※キャッシュフロー＝純利益＋減価償却費＋特別損失－配当金

月次販売高の状況 (DQ)



既存店	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
売上高	103.7%	102.6%	104.2%	103.3%	103.0%	108.8%	106.7%	99.2%	100.8%	100.1%	98.9%	102.3%	99.5%	102.9%	97.9%
・客数	102.6%	102.4%	106.5%	106.4%	101.7%	105.4%	103.1%	98.7%	100.9%	100.5%	99.4%	100.0%	98.2%	100.8%	94.8%
・客単価	101.1%	100.2%	97.9%	97.1%	101.2%	103.2%	103.5%	100.6%	99.8%	99.7%	99.6%	102.3%	101.3%	102.1%	103.3%
対象店舗数	155店	155店	156店	156店	157店	158店	158店	160店	160店	160店	161店	163店	163店	162店	156店



「日用雑貨品」及び「食品」が安定感を持ちながら底堅く推移する中で、前年販売動向に係る反動を吸収するように、「時計・ファッション用品」が牽引。
 3Q累計期間のDQ既存店は1.0%増（客数0.4%減、客単価1.4%増、3Qのみ0.0%）で推移。

3Q連結業績概況

【期間：2012年1月1日～2012年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q		前3Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	131,353	100.0%	127,005	100.0%	103.4%
売上総利益	33,484	25.5%	31,422	24.7%	106.6%
販管費	27,435	20.9%	25,391	20.0%	108.1%
給与手当	9,404	7.2%	8,802	6.9%	106.8%
地代家賃	4,616	3.5%	4,460	3.5%	103.5%
支払手数料	3,062	2.3%	2,904	2.3%	105.5%
減価償却費	2,432	1.9%	2,403	1.9%	101.2%
その他	7,921	6.0%	6,822	5.4%	116.1%
営業利益	6,049	4.6%	6,031	4.7%	100.3%
経常利益	6,376	4.9%	6,013	4.7%	106.0%
当期純利益	3,971	3.0%	2,523	2.0%	157.4%
1株当たり純利益	51.51円		32.37円		159.1%

3Q事業別業績概況

【期間：2012年1月1日～2012年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q		前3Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	126,231	96.1%	122,334	96.3%	103.2%
家電製品	14,117	10.8%	14,399	11.3%	98.0%
日用雑貨品	28,139	21.4%	26,999	21.3%	104.2%
食品	38,687	29.5%	37,614	29.6%	102.9%
時計・ファッション用品	28,264	21.5%	26,180	20.6%	108.0%
スポーツ・レジャー用品	6,312	4.8%	6,224	4.9%	101.4%
DIY用品	4,632	3.5%	4,357	3.4%	106.3%
海外	3,211	2.4%	3,890	3.1%	82.5%
その他商品	2,869	2.2%	2,671	2.1%	107.4%
テナント賃貸事業	3,859	2.9%	3,687	2.9%	104.7%
その他事業	1,262	1.0%	984	0.8%	128.2%
合計	131,353	100.0%	127,005	100.0%	103.4%

※報告セグメントを「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

当期出店状況

フォーマット別店舗数

	2010年 6月末	2011年 6月末	2012年6月期		
			1Q	2Q	3Q
ドン・キホーテ※ ¹	149	150	150	154	156
パウ					
ピカソ※ ²	11	10	12	12	13
M E G A※ ³	27	43	44	46	45
海外(ハワイ)	4	3	3	3	3
ドイト	12	16	15	15	14
長崎屋	17	6	5	5	5
その他	—	—	—	—	—

法人別店舗数

ドン・キホーテ	162	169	171	177	179
長崎屋	42	40	40	40	40
ドイト	12	16	15	15	14
D Q U S A	4	3	3	3	3
その他	—	—	—	—	—
合計	220	228	229	235	236

※1. 店舗業態コンセプトが共通の「ドン・キホーテ」及び「パウ」は、「ドン・キホーテ」に集約表記しております。

※2. 「ピカソ」は「エッセンス」を含んでおります。

※3. (株)長崎屋が運営する業態転換店は、すべて「MEGA」店に含まれております。

※4. 上記の他に、事業効率の見直しにより4店舗を閉鎖しております。



当期ハイライト

既存店における競争力を背景に、商圈内シェアを拡大！！
 当3Q末までの新規出店はDQ8店、MEGA2店に加えて、
 小型店新業態のエッセンス1店及びピカソ1店の計12店、MEGA転換は1店。

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
D Q	高田馬場駅前 エッセンス川口駅前	中洲 上田 広島宇品 豊田	長岡インター 町屋 エッセンス池袋東口 ピカソ赤坂 小松 鹿児島宇宿 ガーデン前橋	盛岡上堂 ※木更津 ※上鶴間
長崎屋 (業態転換)	八王子駅前			
ドイト				

新業態エッセンス開店	コミットメントライン設定	SB80億円発行	ドンキ流セレクトショップ開店	鹿児島県初出店	岩手県初出店
------------	--------------	----------	----------------	---------	--------

※木更津店は移転、上鶴間店は業態転換であります。

緊急レポート

都心型新業態に潜入



現場から生中継でお伝えします

株式会社 **ドンキホーテ**



“ドンキ風セレクトショップ”と銘打ち付加価値型アイテムを厳選した「オトナ向け」仕様。

什器も木目調・モノトーンを基調とし、ジャズサウンドが流れるシックな雰囲気。お客様がリッチな気分になれるワンランク上のお買い物空間を提供。

1Fは食品・日用雑貨品・化粧品なども定番商品からインポート系まで幅広いラインナップにて展開。

ハイセンスなお菓子をオフィスに持ち帰れば・・・

「きゃ～オシャレ。部長すてきですね」と高ポイント獲得間違いなし!



ネオテンキ誕生！
ここはもはや次世代空間

東京都港区赤坂3-11-14
東京メトロ銀座線・丸の内線「赤坂見附駅」ヘルピー赤坂口より徒歩2分
東京メトロ千代田線「赤坂駅」1番出口より徒歩3分
売場面積：487.9㎡ 24時間営業

都心小商圈寡占型

「ドラッグストア+コンビニ」をコンセプトとしたエッセンス。
昨年7月の川口駅前店に続き、同業態として2店目となる当店。
美と健康に関心の高いお客さまをサポートすべく「美探研究員」なるスタッフが在籍。



医薬品やサプリなどの「ヘルスケア用品」以外にもバッグやアクセサリも充実。

「センパイ最近キレイになってうらやまし～い。女子力UPの秘訣はなんですか？」

「ウフフ。毎日エッセンスに寄ることよ」

全力でサポート！
「キレイ」を

東京都豊島区東池袋1-2-9 JR「池袋駅」東口より徒歩3分
売場面積：441.1㎡
営業時間：午前10時～翌午前4時

2012年春の陣！

大人の街に提案する
ドンキならではのびっくり箱
PICASSO
赤坂店



池袋に新業態！
ドンキ流『美と健康』の殿堂。

ESSENCE

池袋東口店

旗艦店舗 発進!

鹿児島宇宿店

九州最南端制覇!
期待の県内初出店!

鹿児島県鹿児島市宇宿2-2-18
「スクエアモール鹿児島宇宿」内
JR指宿枕崎線「宇宿駅」より
徒歩約7分
鹿児島市電「脇田駅」より
徒歩約5分

売場面積：2,000.0㎡
営業時間：午前10時～翌午前5時

かねてより出店希望エリアだった鹿児島県に満を持して出店した同県1号店。生活必需品をはじめ、ご当地ならではのニーズに合わせたコーナーまで約6万アイテムを展開。今後の地方出店のモデル店としたい。



一酔いたい夜こそ宇宿店へー
「あのプレミアム焼酎が手に入るって?」

本格芋焼酎も充実、
晩酌のお供探しに必見。
ショーケース展開が定着
した高額ブランド酒も
伸長中。

グランドオープン!

梅田本店

ボールを脱いだ大型旗艦店舗!
大阪の新しい“顔”が梅田に誕生!



2011年6月の1次オープンから大幅増床。
フロア面積は約3倍となり、品揃えを拡充し関西
地域の旗艦店舗にふさわしい陣容が整いました。

1Fエントランス水槽隣の仏像オブジェは一定
間隔で赤く目を光らせ、鼻から煙を吐く演出で大
阪の玄関口「梅田」の新しい名物としても期待が
高まります。

都心の超一等地進出で最新の「買い場」を具現
化させたドンキ・ニューモデル店舗です。



大阪府大阪市北区小松原町4-16
各線「梅田」駅、JR「大阪」駅より徒歩5分
売場面積：2,580.0㎡
24時間営業



長崎屋復活計画 Ver.5

驚安の殿堂

MEGA
ドン・キホーテ



<業績進捗状況>

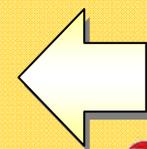
(11年 7月~12年3月)

売上高成長率	110.8%
粗利益率	22.5%
販管費率	18.7%
・人件費率	6.9%
・償却費率	1.6%
・その他	10.2%
営業利益率	3.8%

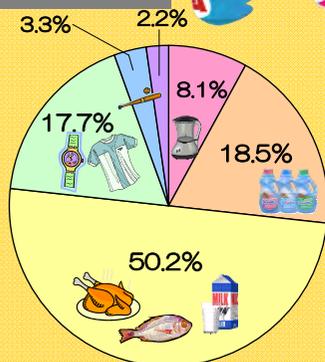
店舗数 : 35店
売上構成比 : 96.0%

(10年 7月~11年3月)

売上高成長率	21.3%
粗利益率	19.2%
販管費率	7.0%
・人件費率	1.8%
・償却費率	10.4%
・その他	2.1%



<商品構成>



- 家電製品
- 日用雑貨品
- 食品
- 時計・ファッション用品
- スポーツ・レジャー用品
- その他

<業績進捗状況>

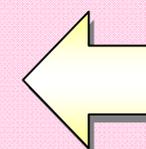
(11年 7月~12年3月)

売上高成長率	97.7%
粗利益率	28.6%
販管費率	27.6%
・人件費率	10.0%
・償却費率	0.5%
・その他	17.1%
営業利益率	1.0%

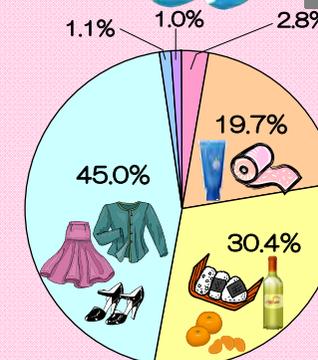
店舗数 : 5店
売上構成比 : 4.0%

(10年 7月~11年3月)

売上高成長率	27.6%
粗利益率	28.7%
販管費率	9.8%
・人件費率	0.8%
・償却費率	18.1%
・その他	▲1.1%



<商品構成>



(注) 1. 「MEGA/DQ」「GMS長崎屋」とも、対象期間内のフル稼働月の営業損益推移を表しております。
2. 改装等に伴う休業期間月及び本社費用は含まれていないため、株式会社長崎屋合計とは一致しません。

アウトドアにも情熱価格

情熱価格 2012年春夏の新作オススメアイテム!



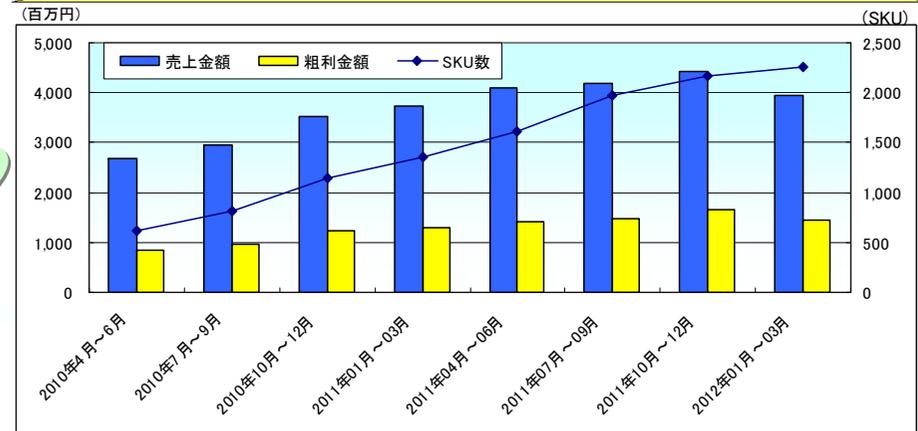
情熱価格新商品 (左上から)

- ① コンパクトカラータープ 7,980円
- ② アームメッシュチェア 990円
- ③ クーラーBOX (13ℓ) 1,480円
- ④ コンパクトカラーテーブル 990円
- ⑤ アルミジャバマット 598円 (1枚)
- ⑥ CDラジオ 2,950円

※価格は参考価格です。時期・店舗により異なることがあります。



販売実績推移



～商品開発の現場から～

C.O.P事業本部 PB事業推進室 ディレクター 中尾宗孝



「汎用品を安価に製造して差別化するというだけではなく、お客様が購入された後に物足りなさを感じることのない、真に「良い商品」を提供できるよう心がけています。

サイズ、色、形、質感、デザインとあらゆる要素を追求し、顕在化している顧客ニーズに応えることはもちろん潜在的なウォンツ (WANTS) に寄り添い、新しい発見や共感を起こすことが出来れば完璧です。

これからも顧客最優先主義に照らした商品開発をすすめていきます。」



お客さま満足の最大化を追求しながら、継続的な成長と安定を目指す！

1. グループ：事業効率のさらなる改善を進め、お客さま支持率の高い店舗運営を促進
2. 営業方針：業態創造と変化対応
既存店活性化策を推進し、競争優位性を高める
お客さま層拡大に対応した、サービスレベルの質的改善と向上
3. 商品戦略：商品開発力の強化（PB「情熱価格」ラインナップの拡充）
商品編集力を磨き上げ、消費マインドの変化を先取りした商品ポートフォリオの構築
生活必需品の品揃え強化と徹底したEDLPの推進
4. 店舗戦略：設備投資額予想：300億円（出店地域の拡大、MEGA店の収益力向上）
新規出店：20店±α、閉鎖4店（うち2店は移転統合及び業態転換）
DQ既存店の予想：通期=0.0%増
5. 財務戦略：バランスシートの改善と資金効率の向上
内部留保を積み上げ、財務基盤を強固に
年間配当金予想28円（2Q末10円）



通期の連結業績予想

(単位：百万円)

売上高・利益予想に
変更ありません

	通期予想			前回予想		前期実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	531,000	100.0%	104.6%	531,000	100.0%	507,661	100.0%
売上総利益	138,000	26.0%	106.9%	137,300	25.9%	129,074	25.4%
販管費	109,500	20.6%	105.6%	108,800	20.5%	103,738	20.4%
営業利益	28,500	5.4%	112.5%	28,500	5.4%	25,336	5.0%
経常利益	27,500	5.2%	109.4%	27,500	5.2%	25,138	5.0%
当期純利益	16,410	3.1%	129.6%	16,410	3.1%	12,663	2.5%
1株当たり純利益	212.85円	—	110.4%	212.97円	—	167.82円	—
設備投資額	30,000	—	79.2%	30,000	—	37,872	—
減価償却費	9,600	1.8%	102.3%	9,600	1.8%	9,385	1.8%



「顧客最優先主義」と「企業価値の拡大」を追求し、
引き続き増収増益決算を目指します。

※ 前回予想は、2012年2月6日に公表したものであります。24

フィデック決算業績

(単位：百万円)

【PL概況】	2012年3月期			2011年3月期	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比
取扱累計高	134,569	—	112.8%	119,342	—
営業収益	2,618	100.0%	117.8%	2,223	100.0%
債権買取収益	1,773	67.7%	111.7%	1,588	71.5%
業務受託収益	845	32.3%	133.2%	634	28.5%
その他収益	0	0.0%	84.1%	1	0.0%
金融費用	318	12.1%	93.8%	339	15.2%
販売管理費	1,546	59.0%	99.5%	1,553	69.9%
営業利益	754	28.8%	228.2%	331	14.9%
経常利益	785	29.9%	219.4%	358	16.1%
当期純利益	708	27.0%	+3,030	▲2,322	▲104.5%

(単位：百万円)

【BS概況】	2012年3月期		2011年3月期
	金額	増減	金額
総資産	17,300	379	16,921
負債	15,284	▲340	15,624
純資産	2,015	719	1,297

【取扱累計高及び債権買取収益】



取扱累計高及び債権買取収益とも順調に増加、
収益力は拡大し、業績は会社予想を上回って着地！

本日はありがとうございました。



IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドン・キホーテ 経営企画部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

IRカレンダー

第32期（2012年6月期）決算発表（予定）

決算発表日：2012年8月17日（金）

説明会会場：東京証券会館 9階 （東京都中央区日本橋茅場町 1丁目5番8号）

将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

株式会社
ドン.キホーテ
Don Quijote Co.,Ltd.